



引間豊作選 投稿数25句

新調の靴鳴らし行く夏野かな 下日野沢 引間富美子

(評) 江戸時代の恋の殺し文句に、「忘れなければ想い出さず候」の名台詞があるが、この句一読で、タイムカプセルを開いてみたくなる。物心ついた頃聞いた、「お手をつないで、野道を行けば、皆可愛、小鳥になつて、歌を唄えば靴が鳴る」のメロディが湧いてくる。この作者も、靴鳴らし行くのフレーズを得た時、無邪気なあの子もこの娘も、その頃の顔を揃えて、輪になったのかも。

子かまきり風よりかるく吹かれ来し 桐満開武甲の峰も手のうちに 金崎 設楽 武子

沢蟹をはじめてつかむ都会の子 下日野沢 中田 久恵 万緑や身の幸せをつくづくと 下日野沢 五十嵐静枝

花菖蒲咲かせて過ぐる天気雨 三沢 横田 龍雲 控えめな路地の紫陽花雨が彼 下日野沢 藤田 稔

雉子鳴き今日一日の始めとす 下日野沢 田端 マサ 野仏は泣く人見つめ梅雨の中 上日野沢 四方田利男

吾れの背を追い越す孫や花菖蒲 下日野沢 根岸 進 運ばるる氷の音や夏料理 下日野沢 小川 もと

紫陽花で峡の道みち明りけり 皆野 新井 茂 青虫や蕾となりしくちなしに 三沢 沢野 恒平

万緑や旅立ちの歌聞く静寂 三沢 関和 トヨ 入梅と暦の声に梅実る 皆野 根岸 静子

雲曳きつ小雨しよぼ降る庭すみに赤きダリアが負けじと咲けり 上日野沢 四方田利男

蛇猫の外敵さけて燕の巣直売所賑わつ破風の真下に 皆野 金子善次郎

「ないちよだよ」女會孫吾に口ずけの大人に勝る演技見せたり 皆野 塩田 千代

葉月なる御巢鷹山を偲ぶる見上げて「らん名も無い星を 皆野 新井 茂

波荒き海の幻想にひとりつつ魚貝の美味に満ちたる至福 皆野 新井 愛子

夜の庭に出づれば涼し風に乗り蛩舞ひをり心癒さる 三沢 新井 叶子

梅雨ごもり雨音聞きつつ読む文庫吾一人だけの歴史の中に 下日野沢 中田 久恵

母の日にてつせん届く子と孫の二色寄り添い三年楽しみ 皆野 吉岡 ヨシ

消印は「富士山五合目」小五なる孫より移動教室便り 三沢 真下 杏子

神杉に霧包まるる三峯の漆香ただよふ社殿に座する 三沢 新井 民子

水害は日本列島駆け巡るここ荒川の平穩に安堵す 金崎 山田 雅子

梅雨深き庭に生ひ立つ草々を分け入りて剪る紫陽花の穂 皆野 笠原三江子

秒読みの電車の時刻アクセルを白バイ我に罪の罰 下日野沢 藤原 道男

蛙の子手足が生えて尾は何処に栄養源と孫に教わる 野巻 町田 忠次

投稿数15首

俳句・短歌を募集 (8日必着) 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。1人1句、1首に限ります。